



黒須としたか

活動レポート
田園海浜文化都市宣言
CROSS通信

事務所：大網白里町大網33-8サンモア内 TEL0475-73-4126（ナミヨイフロ）
自宅：大網白里町仏島28-8 TEL0475-73-8615 FAX0475-70-2666
<http://www.geocities.jp/ooamicross/> Eメール: ooamicross@ybb.ne.jp

子宮頸癌ワクチンの闇 製薬会社からの迂回献金か？

6月議会で重い副作用が相次いでいる子宮頸癌（けいがん）ワクチンの接種推奨を止めるべきだと質問したが、政府の検討会が休止の必要はないと言っているとの理由で大網白里市も休止しないの一点張り。日本の子宮頸癌ワクチンの多くはイギリスの製薬会社グラクソ・スミス・クライン社が製造しているサーバリックスだ。大網白里市でも全中学校女生徒と小学校六年生女兒を対象にサーバリックスが無料接種されている。このワクチンは接種100万人当たり100人以上の重篤な副作用が出ていて、これはなんとインフルエンザワクチンの50倍以上の副作用発症率という。自治体が自分の頭で考えず国や業界団体の言いなりでは「自治体」という名を返上した方がいいのではないか。そうこうしているうちにようやく厚生労働省も子宮頸癌ワクチンを推奨しないことになった。さすがに被害実態を無視できなくなったとみえる。

さて、なぜこんなデタラメがまかり通るのか不思議だった。その疑問の一部にこたえる記事が週刊文春の6月27日号に載っている。子宮頸癌ワクチンの公費助成や定期接種無料化に積極的に関与していた国会議員松あきら氏（公明党）の夫がグラクソ・スミス・クライン社の顧問弁護

士で、その夫は妻である松あきら国会議員に18年間で1億4000万円もの政治献金をしているとの内容だ。夫が妻に政治献金することがあってもおかしくはないが、1億4000万円とはいくら弁護士でもあまりに多額な献金だ。いったいグラクソ・スミス・クライン社からいくら顧問料をもらっていたのだろうか。

ワクチンにしても検診（健診）や抗癌剤などの新薬承認についても製薬会社の利権と医学界や行政のデタラメが横行している。日本人の平均寿命は世界トップクラスでこれは保健や衛生分野、食生活などが大きく、医療分野はもうほどほどにしても十分だではないか。QOLをわざわざ悪くしてまでの検査や治療、副作用の多いワクチン接種をしてはいくら税金や保険料があっても足りない。ちなみに子宮頸癌ワクチンは毎年300億円の税金が使われる。

心ある産婦人科医は、ワクチン公費助成の始まる当初からワクチンの効果に疑問を呈し、むしろワクチンを過信するほうが危険と警鐘を鳴らしてきた。子宮頸癌は成人女性の検診で充分効果が実証されている。日本は欧米先進国と比べてかなり低い検診率だ。若い女性にとって、多くが男性医師が行う検診のハードルが重いからではないか。イギリスでは

医師は立ち会わず、女性看護師と二人きりで五分程度で検査が終わり、日本よりかなり気軽にできる。同じイギリスからでもこちらを学んで改革してもらいたい。

◇ 圏央道インター 本当に必要なか？ ◇

圏央道が開通したが、本市にスマートインターチェンジを作る計画が進められている。インターチェンジはあるにこしたことはないが、果たして費用対効果はどうか？

圏央道のインター建設に概算で30億円近くの税金が必要だ。そのうち市税からは7～8億円負担する。

それだけの負担をしてまで作るからにはよほどの利便性や経済効果がなければならないが、利便性はほとんどない。仮称大網白里インターから木更津や館山まで行くのに時間もかかるし、料金は300円も高くなる。インターチェンジすぐそばに住んでいる人以外はわざわざ高い高速代を払って時間をかけて圏央道を使うとは考えられない。

それでは経済効果はどうか？市は効果を検証すると言っているが巨大大業を途中で止めるのは困難をとまなう。引き返す勇気も必要だ。まずは検証作業をしっかりと進めてもらいたい。